

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅣ(Seminar Ⅳ)		授業コード	E002717
担当教員名	松下 乾次		科目ナンバリングコード	E41204
配当学年	4	開講期	通年 後期入学生用	
必修・選択区分	必修	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	特になし。			
受講心得	出席が必須です。課題(卒業研究論文と発表)をしっかりと達成してください。			
教科書	谷本寛治『CSR 企業と社会を考える』(NTT出版)			
参考文献及び指定図書	授業で、個別に指示します。			
関連科目	特になし。各自卒業研究で選択したテーマに関連して幅広く履修してほしい。			

授業の目的	「現代の企業・組織の課題」を統一テーマに、それぞれゼミナール学生が進む業界(業種)、企業の個別の課題を、論文にまとめる。そして、発表する。とくに、企業(行政組織も)がステイクホルダーとどのように協働し、社会的課題・地域的課題に取り組んでいるかをまとめていく。
授業の概要	ゼミナールⅢに引き続き、企業の社会的責任(CSR)をいっしょに考えていく。後期は、まず卒業研究論文を個別に指導し、12月・1月に順次その成果を発表し、議論していく。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ゼミナールⅣガイダンス</b> ゼミナールⅣのスケジュール、卒業研究論文について。	
<b>第2週：2014年度の時事問題</b>	
<b>第3週：教科書1, 2章を踏まえ、CSRIについて意見を出し、議論する。</b> ゼミナールⅢのまとめのレポートを踏まえ、そして各自春休みに調べたことについて、発表し議論する。 CSVなど新しい動向も見えていく。	資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習する。
<b>第4週：第3章 企業評価基準の変化 1. CSRと市場</b> 「責任ある投資」、統合報告書について。また、ブランド等の客観的評価など。	
<b>第5週：第3章 2. SRIにおける企業評価</b>	
<b>第6週：第3章 2. SRIにおける企業評価</b>	資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習する。
<b>第7週：第3章 3. CSR調達</b>	
<b>第8週：第3章 4. 多様な企業価値</b>	資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習する。
<b>第9週：第4章 企業とステイクホルダーのコミュニケーション</b> 1. 企業とステイクホルダーの関係	
<b>第10週：第4章 1. 企業とステイクホルダーの関係</b>	資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習する。

第11週：第4章 2. ステイクホルダー・エンゲージメント		
第12週：第4章 3. CSR情報開示の課題		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習す
第13週：第5章 企業の社会貢献活動の広がり 1. 企業の社会貢献とは		
第14週：第5章 2. ユニークな試み		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習す
第15週：第5章 3. NPO/NGOとのコラボレーション事例 前期の終了にあたって、卒業研究論文作成に向けて、CSRについての各自の意見がまとめられたものを提出する。夏季休暇中は、各自でCSR白書等を調べ論文作成に努める。		
後 期 第16週：後期のスケジュール、卒業研究論文の進捗状況の報告		
第17週：第5章 3. NPO/NGOとのコラボレーション事例		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習す
第18週：第5章 4. コーズ・リレイテッド・マーケティング		
第19週：第5章 5. 社会貢献活動をマネジメントする		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習す
第20週：第6章 持続可能な社会経済システムを求めて 1. 持続可能な企業と社会の関係 企業を取り巻く環境変化、企業活動継続の条件などを考える。		
第21週：第6章 2. マクロな政策課題、3. ステイクホルダーに期待される役割		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習する。
第22週：CSRの実例		
第23週：CSRの実例		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習す
第24週：行政、公共部門から見た社会貢献活動：特に地域・環境問題		
第25週：行政、公共部門から見た社会貢献活動：特に地域・環境問題		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習す
第26週：行政、公共部門から見た社会貢献活動：特に地域・環境問題		
第27週：中国等外国のCSRの動向		資料を熟読し、議論に参加し、ゼミナール終了後、ポイントをノートに整理し復習す
第28週：発表会と議論 卒業研究論文の完成。ゼミナール内で発表会(質疑応答)を行い、代表選出。		
第29週：発表会と議論		
第30週：発表 代表選出		
学部発表会		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	企業の社会的責任について、各自の進路と関係させて考える。
【知識・理解】	企業の社会的責任についての一般的理解を学習し、その意義・課題を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	企業の社会的責任について、各自の進路と関係させ、具体的事例にそくしてまとめる。
【思考・判断・創造】	企業の社会的責任について、独自の見解を示す。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点	
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	